

# 中学校給食

## 反映されているのか 学校現場の声

**問** 中学校給食については、平成二十七年に給食センター方式で実施するなどの方針が提示されているが、学校現場への説明が後回しになっている。まずは現場の声を聞いて現状を把握し、問題を解決した上で実施するべき

### 待機児童ゼロへ

### 幼稚園を活用

### 24年度中に実施

**問** 保育所における待機児童解消について聞く。  
**答** 現在、本市の待機児童は、西明石と大久保地域に多く、年齢別では0歳から二歳児に集中している。しかし、施設を新設するには費用面や時間的に難しいため、緊急対策として幼稚園の教室を活用して保育所の分園を開設したいと考えている。開設場所は、貴崎、藤江、高丘東幼稚園で、0歳から二歳を対象に各園三十人程度を受け入れる予定だ。運営は市内の認可保育所の分園として公募し選考により決定する。開設時期は、平成二十四年十

と考えるが、市の見解を聞く。

**答** 中学校給食の実施に向けては、できるだけ早い段階から学校運営上の課題について現場の意見を聞きながら対応したいと考えている。特に教職員は現在も生徒指導や部活動指導などの負担が大きい上に、給食指導が加わることで、負担がさらに増えることは十分認識している。解決すべき問題も多いが、学校現場の意見をよく聞きながら円滑に進めていきたいと考えている。

月以降で、遅くとも来年度内を予定している。今後は送迎時の安全対策等、関係者の不安解消に向け、幼稚園や保育所と十分協議し丁寧に対応していきたい。

### マナー向上へ

### 設置できないか

### ドッグランコーナー

**問** 愛犬家は良識ある人が多いと思うが、市内から犬のふん放置等がなくならないのも事実だ。愛犬家のマナー向上のため、飼い犬を自由に運動させられるドッグランコーナーを設置できないか。  
**答** 犬のふん害対策については、明石市空き缶等の散乱およびふん害の防止に関する条例を制定し、看板の設置や



マナーを守って散歩しよう

ドッグランコーナーの設置については、飼い主に規範の輪が広がり、マナー向上にもつながっていない。

啓発冊子の配布、飼い主のマナー教室や飼い犬のしつけ教室などを実施しており、一定の効果があったと考えるが、ふん放置等はなくなっていない。

**問** 子どもを預かるファミリーサポートセンターを定期的に研修と情報交換を実施

### 子どもを預かる

### ファミリーサポートセンター

### 定期的に研修と情報交換を実施

**問** 会員同士で一時的に子どもを預かるファミリーサポートセンター事業において、預かる側の提供会員の研修や事故が起きた時の対応について聞く。  
**答** 本市では事業をNP

〇法人に委託しており、提供会員に対して、子どもの健康と事故防止など合計十五時間の養成講座を七日間に分けて実施している。さらにフォローアップ講習として年間二回の研修



お目当ての店で大行列

ながらと思われる。しかし、本市の厳しい財政状況を考えると設置は難しいため、今後の研究課題としたい。

## 大盛況 食べて飲んで歩いて 明石まちなかバル



**問** 観光事業を展開していく上で観光資源の開発は重要である。平成二十三年十月に実施された明石まちなかバルは目標を達成したのか。  
**答** この取り組みは商業者を中心に実施されたもので、食のまち明石を切り口とした中心市街地への集客と回遊性の向上等を目的に六十店舗が参加し、十月二十二日の土曜日に開催された。当日は多くの参加者でにぎわい、マスコミにも取り上げら

れ、明石のPRに寄与するとともに、参加者や参加店舗からも好評で、目標は達成されたと考えている。  
今回は、より充実したものになるよう期待するとともに、今後中心市街地の活性化に向け、市としても連携を図っていきたい。

**問** 平成二十四年三月の市バス路線の民間移譲に伴い、路線の便数は拡充されるが、一部の地域でコミュニティバスのルートと重複する

### 一部重複 ルートの見直しは

### たこバス 路線バス

と聞いている。コミュニティバスのルート見直しは行うのか。  
**答** コミュニティバスは、民間での運行が困難な地域に高齢者や障害者等の移動手段として導入している。路線バスとルートが重複する場合は、路線バスがコミュニティバスのルート

と判断できればルート見直しを行う。民間移譲により西明石、魚住地域等に新設される路線が、一部コミュニティバスのルートと重複するが、路線バスのサービス水準がコミュニティバスの水準に達していないと判断したことから、ルート見直しは行わない予定だ。

## なぜ3年更新なのか 文化施設の 指定管理者制度

**問** 指定管理者制度は経費削減が目的であり、文化施設にはそぐわないと考える。また、文化芸術の育成には継続性が必要だが、なぜ指定期間は三年なのか。

### 市民便利帳 新たに発行を

**問** インターネットを使える人と使えない人では行政の情報量に差があることから、手軽に情報を入手できる明石市民便利帳を新たに発行してはどうか。

**答** 市民便利帳は、市民サービスの手続きや各種窓口をまとめた冊子で、おおむね四年ごと

会を開くとともに、提供会員が情報交換できる場として交流会を毎月一回開催している。事故が起きた場合は、基本的には会員間で解決することになっていくが、最終的な責任は市が負う。また、当事者とともに事故を検証し、再発防止に生かしていく。

## 子宮頸がん予防接種 費用は全額助成 申請率は約90%

**問** 子宮頸がん予防接種事業について、本市は先進的な取り組みを実施しているが、その現状を聞きたい。  
**答** 本市では、小学六年生から高校二年生の女子を対象に、子宮頸がん予防ワクチン接種費用を全額助成しており、平成二十三年十月現在

**答** 指定管理者制度の導入は、効率性だけでなく民間が持つ技術や知識を活用することで新たなサービスを期待できる。また、指定管理者の募集要項では、明石に根ざした文化芸術事業の提案を求めている。指定期間については、緊張感ある事業運営の確保と多くの団体からの斬新で多彩な提案の機会を増やすことで文化芸術の振興につながることを三年と



平成18年度より指定管理者が運営

に作成し、全世帯と転入世帯に配布してきた。しかし、施策や制度の説明は広報あかしやホームページ、パンフレットなどで案内していることや、経費の節減を図るため、平成十九年四月以降は発行していない。しかし、ホームページからの情報入手が難しい人や冊子等で見たいという意見もあることから、発行の必要性は認識している。今後は発行経費を少なくできるよう調査研究をすするとともに、利用しやすいものとなるよう検討していく。

で、申請率は約88.9%と当初の見込みを大きく上回っている。事業啓発の取り組みとしては、市民フォーラムの開催や学校およびPTAなどに対し職員が出向き講座を行っている。また、新たに対象となる子どもたちに向けたパンフレットの作成など、さらなる啓発活動に努めていく。子宮頸がん予防には、ワクチン接種が有効であり、事業を継続していきたいが、助成内容については、今後、国の動向を見ながら検討していく。